

地域活性化を目指して 写道

この活動を通して地域活性化に貢献するには今舞鶴から減りつつある人口を増加させ多くの働き手や消費者を取り戻すことが地域活性化につながると考え人口増加を目指し活動していくことに決定。

人口増加を目指し活動当初は、独身の海上自衛官が多いことから海上自衛官の方々に向けてお見合いパーティーを開きそれをきっかけに結婚した海上自衛官の方に老後舞鶴に移り住んでもらえるようにするという内容のお見合いパーティーの主催し計画した。そのために、舞鶴の遊覧船に乗ったり赤煉瓦パークを見学したりしてデートスポットになりそうなところをさがした。

しかし、海上自衛官の方々にインタビューをしたところ『転勤が多いので老後舞鶴に住み生活するかはわからない』などという意見をいただき転勤の多い海上自衛官を対象にしたお見合いは人口増加につながりにくいのではないかと考え活動内容を変更。

その後、グループで話し合い舞鶴の海や山などの絶景を和田中学校のホームページで公開し、それを見て舞鶴に魅力を感じた人たちが舞鶴に足を運び観光してもらう、さらに魅力を感じ移住を考える人がいれば結果として舞鶴の人口増加に繋がると考え目的を変えずに活動内容を変更した。その後は学校の外に出て海や山など写真を撮影した。7月末から写真を撮り始め10月あたりまで写真を撮り続けた。市役所の方に手前、真ん中、遠くといった三段構成を意識することや普段見ない高い位置や低い位置から新鮮な写真を撮影すると日常的なところでも絶景を撮影することができると景色の写真を撮るコツをおそわり実践し、より魅力を感じる舞鶴の絶景を撮影することができた。時には学校内に現れた自然の生き物の写真を撮影することで舞鶴の自然をアピールした。

9月あたりから写真撮影と同時進行でホームページに載せるためどのような構成で作っていくのかという下書き作業を行った後、HTML というホームページを作るために使う言語を使いホームページを実際に作っていった。HTML を使わないと出せない色や図を使ったり写真に添える言葉も『自然』や『絶景』など舞鶴のよさを言葉からも出せるようにしっかりとこだわって見やすく惹きつけられるようなホームページを作ることができた。

実際に撮った写真↓



地域活性化

舞鶴にどうしたら人が来るのか？

目的

地域を活性化しようという目的で総合学習を各々の班でどうしたら舞鶴が活性されるのかを考えた。

自分たちの班は舞鶴の人口に目をつけた、そこから分かったことは舞鶴の人口が昔に比べ大幅に減少しているということだ、そこで自分たちは舞鶴の人口を増やすことが1番舞鶴の活性化につながるのではないかと思い、人口増加について考えたのが目的だ。

内容

自分たちが人口増加のためにやって来たこと。

一つ目はデートスポット探した。なぜこんなこんなことをやったのかというと舞鶴は森、海があり晴れた日にはとても良いデートスポットになるのではないかと考えバスに乗り自分たちがあらかじめ見つけておいたところに行きどうだったかをメモを取ったりしたがスポットを広めようとするにはあんまし勧めるれない所だったので断念した。

2つ目は、舞鶴と他の地方のことをよく知っている自衛隊の人にインタビューを行った。

自衛隊の人にインタビューした主な内容としては舞鶴と他の地域の違い、舞鶴にあって欲しいもの、不便だなと思うこと、舞鶴の良いところ、などをインタビューした。インタビューした理由は人の意見を聞くのも活性化につながるのではないかなと思いインタビューをしその意見をもとにして活性化できりることを考えたがどれも自分たちの力で解決できる問題ではなかったの諦めた。

3つ目は、ホームページを作成しそのホームページに自分たちが撮ってきた舞鶴の自然の写真を貼

りホームページを見てくれている人に対して舞鶴の自然の良さを伝えたら良いなと思いこの活動をした。活動内容は舞鶴の良さをよりたくさんの人に見てもらいたかったので、インスタグラムでやれば良いのではないかという意見もあったけれども、それだと誰か一人のスマホを使ってしまい、一人任せになってしまうので、みんなで考え行動しなければならないの何だろうと考えたときに、ホームページに載せるのが良いのではないかと考えた、なぜならホームページに載せるにはソースコードが必要になり、そのソースコードうつ人もいる、ソースコードを打つためにはあらかじめ下書きが必要になるので下書きをする人もいるし、自分たちが取り上げたところに行ってもらうにはルートがないといけないのでルートを書く人もいるのでホームページが良いのではないかと思いホームページに写真をあげることにした。だけどーからホームページを作るには、費用がかかってしまうので学校で使っているホームページを使うことにした。行ったことは、各々が舞鶴の自然で綺麗だなと思うところで写真をとった。

そこで意識したことで、写真を三段構成で撮ることを意識した。具体的にいうと、近いところ、真ん中のところ、遠いところの三段にして撮ることを三段構成という。

遠
中
近



そしてとった写真をホームページにソースコードを使い配置など決め投稿した。これが自分たちがやってきたことだ。

まとめ、自分たちはこの活動を終え思ったことは舞鶴を活性化するために結構いろいろなこと考え行動してきた、例えば、活性化と言えどもやってきたことはばらばらだったと思うけど、共通していることはどれも活性化するためにはというものを必死に考え行動したことは木共通していると思っている。この活動でついた力は考え行動する力だと思っていてこの力は持つといて損はしないのでこの活動は意味のある行動だと思った。

和田クエ

・TMK (竹で舞鶴を活性化)

○目的

・舞鶴に竹がたくさんあるので竹を捨てずに何か加工してお世話になった人にあげたい

○物の案

1、竹ぽっくり

2、バンブークーヘン

○1竹ぽっくり

なぜ作ろうとしたか

・外で遊ばない子供達に竹ポックリを使って外で遊んでほしい
・外で運動する楽しさを竹ポックリできっかけにして外でもっと遊んでほしい

○材料

・竹 ひも

○作り方

・竹を一節ずつ切り離す→節のすぐ下に直径5ミリほどの穴を2個開ける→紐の両端を穴に通し、中で結ぶ→完成

○工夫した点

・子供でも遊びやすいように。紐を短くした
・色をつけて楽しめるように

○分かったこと

・作り方も簡単で竹の消費に使える
・少し穴の空いた竹が余ってしまう

○竹ぽっくりを作ってやったこと

幼稚園 小学校に寄付した



2、バンブークーヘン

○なぜ作ろうとしたか

- ・竹がまだたくさん余っていた
- ・自分たちで食べ物を作って食べたい

○作り方

生地を作る (20cm のバームクーヘン 2 本、約 12 人分) ホットケーキミックス 600g

牛乳 500ml

卵 3 個

砂糖 100g 溶かしバター 100g

かまどを準備する

- ・生地は少しかため 砂糖は多めを意識する
- ・あらかじめ温めておく ・薪より炭がいい ・多少炎が上がっても大丈夫
- ・爆発防止のため節を削り、ところどころに傷をつける
- ・中心部分 30cm くらいにアルミホイルを巻く
- ・余分な生地はお玉で取る ・ぽたぽた垂れなくなるまで待つ
- ・生地が垂れないように、棒をくるくるまわす ・焦げ目はしっかりつける ・焼く→生地をつける、くりかえす

○分かったこと

- ・炭が消えるのが早かったのがまだいることが分かった
- ・風を強く当てて火を強くする
- ・竹が少し太くてうまくバームクーヘンの層にならなかった



○結果

- ・舞鶴の竹の有効的な使い道が分かったと思う
- ・自分たちのお世話になった人にも加工した竹で恩返しをすることができた



舞鶴活性化のためのケーキ作り

1.目的

私達は、舞鶴は少子高齢化の影響で人口の減少に悩まされているという課題点に着目した。そこで、現在、日本の人口の大半の人は知っているであろう「インスタ映え」という言葉に焦点を置き、その中でも特に若者からの支持が高い、映えるスイーツの販売に取り組むことにした。

2.販売に向けて

舞鶴のシンボルといえば五老ヶ岳。ならば、五老ヶ岳に見立てたカップケーキを作るのはどうかという意見の合致により、五老ヶ岳のケーキ通称ごろうがたけーきを作ることになった。

ごろうがたけーきの試作は計7回にわたり、試食をしアドバイスをもらいながら試行錯誤を重ねた。

試行錯誤を重ねた末、12月2日～12月11日の土日、15個限定で販売することができた。

3.実際に販売をしてみても

実際にケーキを販売して、無事60個全て完売させることができた。色んな方々の支えによって販売することができ、完売という目標まで達成をすることができた。

4.意見

GORO SKY CAFÉにてごろうがたけーきを食べてくださった方にはアンケートを実施した。そしてアンケートに答えてくださった57人中なんと、56人が満足したと回答してくれた。それを聞いた途端、ケーキを作るためにかけた時間、日々の努力が報われたような気がした。書いてくださったアンケートの言葉の大半はどれも賞賛の言葉や、もっとこうすれば良くなるなどのアドバイスだった。

抹茶と餡子のあるようではなかった組み合わせが成功することができたキーの一つでもあると思う。和風のテイストと可愛い見目がどの年代の方にもささったのではないだろうか。



5.活動を終えて

私達が1年間熟考し、出来上がったケーキを販売するという一生に一度もないようなとても貴重な経験をする事ができた。この経験は高校でも、職場でも存分に生かすことのできる力になるだろう。自分が考え、模索したものが形になることはとても素晴らしいことだと私は思う。考えるだけなら誰でもできる。そこからどう行動するかで変わっていくのだ。

MGC のまとめ

まずこの MGC というのは総合的な学習の時間の行われた和田クエストという時間でできたグループです。和田クエストの目的は舞鶴の人口を増やすというもので各々の目的に合わせて仲間を作りグループを作って進めていくというのが和田クエストの進み方です。

この活動は2021年の2月から始まり2022年の12月まで続いた。そして我々チーム MGC は五老ヶ岳をモチーフにしたケーキを製作しカフェ nanako で販売させていただいてチーム MGC の仕事も終わりました。

MGC の始まりは4人でした。

自分は休んでいて学校へ来ると3人になっていてその後は、zoom での会議は3人で行いました。その zoom の会議ではスイーツの販売の許可やどのようなスイーツにするのかなど話し合いをしました。そのあとは他のチームの解散により

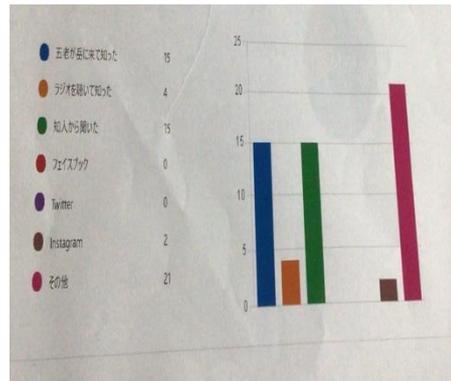
1人増えて4人で活動してきました。4人での初仕事はフィールドワークでした。その

フィールドワークでは五老ヶ岳に行ったりラクロシュットに行きスイーツのアイデアをもらったりしました。そのアイデアから試作に持っていき計6回の試作をとおして完成まで持っていったからとてもよかった。4人での作業で絆が深まったと感じました。

試作で使った材料はみんなで色々な場所へ買いに行ったけどホイップを出すための口金がなくその口金を求めて様々なお店を回ったけど見つからないというのでネットで頼んだけど結局必要無くなるというのでちょっとだけ嫌な気持ちになったけどみんなで本番に向けて頑張ったことを思い出したというのでなんとか頑張れたのでそんなに気分が悪くなかったのでよかったけどもしあのまま機嫌が悪かったこれまでもうまいにうまくできなかったと思うので危なかったです。

そして販売を FM 舞鶴のラジオにみんなで出演して緊張もしたけどとてもいい経験でした。

そして最初の販売の時は全然人が来なくて4時までかかりましたが2回目は、約1時間で完売したので驚きました。三日目はなかなか来なくて時間かかったけど完売できたし4回目もなかなか来なくて閉店までかかってしまったけど全て完売できたので良かったです。



【ごろがたけーき】 チーム MGC より

チーム MGC の由来・意味

M…舞鶴 G…五老ヶ岳 C…ケーキ の略

自分たち五老ヶ岳にあるカフェ Nanako で自分たちが考えて発明したオリジナルのケーキを販売し食べてもらうと言う目標に沿って活動を行ってきた。この活動を行ってきた理由は、舞鶴を活性化させるためだ。舞鶴は少子高齢化が進んでいて若者が高齢者より圧倒的に少ない。だから観光客に多く出入りする五老ヶ岳で自分たちが考えたケーキを食べてもらい、舞鶴について知って欲しいと思い活動を始めた。

【ケーキのデザイン】

・五老ヶ岳をイメージ

「ごろがたけーき」は、ボリュームたっぷりの抹茶クリーム&こしあんのコラボが絶妙の甘さを引き出している五老ヶ岳オリジナル和風スイーツ。抹茶クリームは五老ヶ岳の緑、マシュマロとホイップで雲海に浮かぶスカイタワーをイメージした。

～流れ～

- ①ケーキ屋に行きケーキを作る上で意識していることや大切なこと、注意していること等を聞いた
- ②GOROSKYCAFE nanako に視察
- ③試作作り 5～6回
試作作りに当たって材料を買うためのお金が不足
☞募金活動
- ④FM 舞鶴のラジオに出演しインタビューや宣伝、呼びかけ
- ⑤GOROSKYCAFE nanako で販売

～販売～ 【12月3日（土）4日（日）10日（土）11日（日）】

- ・1日に15個限定（土日のみ）
- ・午後12時から販売（午前10時から整理券を配布）
- ・ドリンク付きで税込1000円
☞食べて頂いた方にアンケートに協力していただき改善していった。

【感想】

貴重な体験を通して、仕事をする大変さ、責任感、笑顔の大切をさを感じることができた。初めの方は買ってくれる人はいるのか不安な気持ちでいっぱいだったが、Instagramやラジオを聞いてきてくれた方が多くいてすごく嬉しかった。アンケートの中から「中学生が考えていた企画とは思えないくらい凄い」「とても美味しかった。また食べたい。」などの意見があって、自分たちが考えたスイーツをいろんな方に食べて喜んでくれる嬉しさ、ここまで頑張ってきて良かったなと思う達成感を味わえることもできた。

和田クエスト

1 和田クエストの始まり

私は自然いっぱい豊かな舞鶴で生まれ、今まで育ってきました。舞鶴は大きな海山があり魅力がたくさんある町です。ですが、舞鶴の人口は年々減少しています。1960年は約、10万人の人が住んでいましたが、今は人口が8万人に減少してしまいました。昔のような、若者もたくさんいて活気がある舞鶴を取り戻すために和田クエストの活動が始まりました。

各グループに分けそれぞれのチームで舞鶴の魅力をどう伝えるかを考え活動がスタートしました。

2 活動内容

私のグループでは、若者に舞鶴を知ってもらったり、舞鶴の魅力を発信する為にSNSを活用したいという意見が出てきました。その意見をもとに「舞鶴をモチーフにしたスイーツを作り、発売して舞鶴を知ってもらおう」と言う大きな目標を掲げました。

舞鶴をモチーフにしたスイーツにすることで、SNSにも発信しやすいし若者の目に止まりやすいと考えました。

そして、舞鶴の海とゆるキャラチョコ丸くんをイメージしたクリームソーダとクレープを包む包装を舞鶴をモチーフにしたデザインにして作成するという案になりました。

実際に試作した所、舞鶴をモチーフにしたクリームソーダに課題点が出てきました。

海をイメージしたソーダの青は綺麗に発色しましたが、味がせず想像していた味とは全然違ったり、チョコ丸くんをうまく表現することができませんでした。

そして、課題点が出たことなどをグループで話し合った結果、中学生だけで販売は難しいという意見が出たり、課題点が思っていたより出てきてしまいました。

そのため、「舞鶴をモチーフにしたスイーツを作り、発売して舞鶴を知ってもらおう」と言う大きな目標を掲げ、目標を達成する為に行ってきた活動を断念する事にしました。

3 新たな目標

ですが、私たちは「お菓子作りのレシピを発信する」新たな目標を立てました。舞鶴に住んでいる子供達にお菓子作りの楽しさを知ってもらったり、家族との団欒の場にして欲しいと思いこの目標にしました。

そして、どの季節、時期でも楽しめるように「四季カップケーキ」をレシピにする事にしました。

和田クエが教えてくれたこと

和田クエストで舞鶴を活性化しようという目標で、僕たちは、舞鶴に多くある竹を有効活用しようと言う話になり竹をどう活用するかを考えた。

どのように活用するかは、おもちゃを作る、植木鉢を作る、食べ物を作る、この3つを目標にした。

初めにおもちゃと植木鉢を作り始めた。作ったおもちゃは竹ぽっくりで、このおもちゃを作ろうと思ったきっかけは、舞鶴のみならず、全国的に、小さい子の運動能力が下がってきていたりしているし、運動をすることで、筋肉を強くできたりするので、竹ぽっくりなら、どんな人でも使って遊べるし、同時に健康になることができると思ったからだ。植木鉢は自然が舞鶴に多いということを生かして、植木鉢を作って、花を色んな人にプレゼントしたら、喜んでもらえると思ったからだ。実際に作ってみると、思ったよりも加工が難しかったが、使ってもらう方々に喜んでもらえるようにと、絵の具を使って、模様などを描くなどの工夫ができた。その後、職場体験でお世話になった、幼稚園と小学校へプレゼントをしたところ、先生方も、児童の皆さんにも「ありがとう」という言葉をいただき、実際に使っていて遊んでいる写真までいただいた。植木鉢は花を植えてから、届けるまでに時間がかかってしまったため花が枯れてしまい、プレゼントするのは諦めることとなったが、作成自体は成功した。

初めの方は二つの目標だけだったが、時間があまりにも残ってしまったため、何か食べ物を作ろうと言う考えに至り、目標を追加した。作ろうと考えた食べ物は、バウムクーヘンだ。それ以前に、中学校の先生方にもお世話になっているため、「先生を労おうの会」と称し、竹を土台にして、流しそうめんを作ろうと考えたが季節が過ぎてしまったため、途中で断念した。バウムクーヘンは自分たちが単純に食べたかったのもあるが、それを持って帰って、家族に感謝しようとも考えていた。材料には、ホットケーキミックスを用いて、七輪を使って焼いた。できるだけ量を多くしたいと考えていたため、竹を太くして作ったが、それが逆に仇となって、ホットケーキミックスが焼きづらいという問題に当たってしまったが、ガスバーナーを使って、表面だけでも固めることで、何層にも重ねることができた。竹が細かったら、巻きすぎて重さに耐え切れなくなる可能性もあったため、竹を太くしたのは正解だったのかもしれない。最終的には、5層ほど重ねたところで終了し、一口サイズに切ってグループ全員で食べることができた。味付けも何もなかったため、とてもとてもプレーンになってしまったが、それでも食べ切れるぐらい、美味しいと感じた。

この3つの目標に対してとった4つの行動を通して、身近に多くある自然にも意外な可能性、活用方法があるのだなと思った。自然が有り余っているのはいいことだが、それを使って役立てていくことも大事だから、2つのバランスをうまく保っていくことが大事だとわかった。後、僕たちは計画をしっかりと立てずに行動したからこそ、途中で断念することがあったため、行動はうまくいかなかったとしても、計画はしっかりと立てておく方がいいとわかった。人の役に立つために自分から行動していくことは大事だと思うから、これからも、計画をしっかりと立てること、そして、それを実行に移すことの大切さ、失敗を最小限にするために、臨機応変に対応する力を伸ばしていくことも大切だなと改めて学ぶことができた。



探究活動において大切なこと

1.目的

和田クエストは、舞鶴の課題を自分たちで見つけ、そこから地域活性化するためには「どうすれば良いか」などを考えるものだ。

2.考え

そこで私たちのチームはまず、舞鶴の中でより良くできるものであったり、無駄になっているものや邪魔になっているものは何かを考えました。そこで、私たちは、まず舞鶴には、ウーバーイーツのような宅配サービスが少ないと思い、考えていった。そして、実際に市の方と話をした際に、このようなことができないかを聞くと、「舞鶴の多くお店には、お持ち帰りのものやドライブスルーがたくさんある。そして、もし宅配サービスを始めたとしても働く人が少なく、まともに動くことができない」と言われ、前者のことはともかく、後者の意見には、納得しこの発想は諦めた。そして、「竹を使い舞鶴を活性化していこう」と言っているグループがあり、そこに入れさしてもらった。そのチームは舞鶴には多く竹が存在するという点に着目して考えていった。そして竹を使ったものを作りたいと考え、結果、竹箸ということになった。竹箸を作ることで、舞鶴に竹箸という発想を生ませ、市が動くことで竹が減っていくと考えたからだ。

3.実践

そして、竹箸を作るようになったが作り方や材料、必要なものがわからなかったため、竹箸を作っている「大内工芸」さんに計2回リモートで話を聞いた。1回目は、竹箸を作るにあたって必要なものや大体の作り方を教えてもらった。

そして、材料などが学校にあるか確認し、なかったものは買い出しに行った。そこから実際に作ってみて想像の倍以上難しく、特に一膳で太さ、大きさを揃えたり、綺麗に丸にしたりするのが難しかった。そして2回目のリモートを行い、作り方のコツを聞いた。箸の形は「丸より四角の方がいい」や「削るときはヤスリだけでなく、カッターを使うと良い」などのアドバイスをもらった。そして作るを前回のより綺麗に整った箸を作ることができた。



そしてこの後、竹箸の作り方をホームページに載せたり、それを宣伝するためのポスターを制作した。

4.結果

私たちのチームは、結果的に成功した感じになっているが、実際初めはゴールを決めずにスタートし、そして最終的に「ホームページに載せよう」となったが、結局自分たちの中で中途半端な感じで終わってしまった。

5.今後

私は今後、探究活動をする際には、明確ではなくていいある程度の「ゴール」をはじめに作ってから、やっていきたい。今回ずっと大体でやってきて、結局その場の対応が上手い人間が集まったことで色々な場面を乗り越えてきたが、今後そのようなメンバーばかり集まるわけではないので、これからは計画を最後まで立ててから始めていく。

舞鶴活性化への歩みと五老ヶ岳

～舞鶴のシンボルと共に歩んだ1年間～

『きっかけ』

私が通っている和田中学校は全校生徒が100人にも満たない。少子高齢化を肌で感じていた私は舞鶴の若者の人口減少に危機感を覚えた。このまま若者が減り続けば、美しい自然や歴史が多くある魅力いっぱいの舞鶴が過疎化し、廃れていってしまうのではないかと考えた。そこで、和田クエストという授業を通して舞鶴を活性化できる取り組みをチームで練った。

そうして、生まれたのが「ごろうがたけ一き」である。舞鶴のシンボルである五老ヶ岳をモチーフにしたごろうがたけ一きで若者が好きな“映え”を狙って販売し、地元である舞鶴を盛り上げようと考案した。

『苦悩と実現』

そこから私たちの舞鶴活性化への歩みが始まったわけだが、ケーキを中学生が販売するのは一筋縄ではいかなかった。

一番苦労したのは食品を売る際に一番大事な味のテイストである。初めは若者受けを狙うために洋風にしていた。が、試作を重ねていき五老スカイタワーから一望できる美しい山々を抹茶で表現する方向性に決まった。その際に和風に変えると若者は気に入るだろうか？とチーム内で議論が飛び交うこともあった。

そして、試作を計6回行い、最終的には抹茶風味を生かした和風テイストのケーキが完成した。何種類ものスポンジやクリームを試しては先生達に評価してもらい、また試作、というのを何度も繰り返した。

次第に試行錯誤して作り上げたごろうがたけ一きに私たちは大きな愛着を持つようになった。

そして、2022年11月、ごろうがたけ一きをついに販売する目処が立ち、12月からGoro Sky Cafeで実際に販売することに決まった。販売する際には私たちも接客に応じ、食べてくれたお客さんの反応を見ながら改善できる場所を探そうにした。

最終的に四日間で60個、私たちが用意した分全てを完売することができた。インスタやラジオを見てきてくれたり、五老ヶ岳に来て初めて知った人もごろうがたけ一きを食べてくださり、非常に温かい気持ちになった。中には、もっとこうした方がいいとアドバイスをくれる方もいて、発展途上の私たちにとって大きな学びとなった。

『最後に』

こうして私たちの活動を振り返ると、本当に大変なこともたくさんあった。でも、全てひっくるめて、自分がやってきたことは未来の為になっていると感じた。

この取り組みを始めたきっかけの一つに、地元である舞鶴を若者に注目してほしいという視点があった。が、取り組みが進んでいくうちに、第三者に注目してもらうだけではなく、自分たち自身が舞鶴に興味を持つきっかけとなり、社会参画の本質についても共に考えていくことができたと思う。

このプロジェクトが成功に至るまでにたくさん私たちを支えてくれた先生方やクラスメイト、親や **GORO SKY CAFE** のスタッフのみなさんに強く感謝している。そして何より、たくさんの大人と一緒に関わり、いろんな場面で喜びや苦労を共有してきたチームのみんなに、感謝の気持ちを伝えたいと思う。

この貴重な経験を春から始まる高校生活やその後の将来にもつなげ、苦労して積み上げてきた時間が無駄にならないように、これからも社会貢献に努めていきたい。

そして、この文章を読んでもくれた人に私たちの活動の原点である、地元を愛する気持ちを受け継いでいってほしいと心から願っている。

やばいぜ！！(株)竹箸



まず、和田クエストとは舞鶴を活性化するために、自分たちにできることは何かということを考える時間だと思います。

そして自分が和田クエを始めたばかりの時は舞鶴の市町を排除(交代)させようと考えていました...理由は、いまの市長はなかなか行動に移すことをしてくれないと考えたので違う人ならもう少し良い街作りをしてくれるのではないかと考えたからです。

ですが、考えが変わり自分たちが「舞鶴のために」ではなく、自分たちが「世界のために」という考え方に変わったからです。

そして考えの変わった自分たちは、舞鶴の課題に着目しましたそこで出た意見はやはり生茂っている自然についてのものでした。また、その中に竹が多すぎるという意見があったので竹を少しでも減らすことのできる取り組みをしようという話になりました。そこで、出た意見をまとめました。すると、特に多かった意見がお箸やお弁当箱を作りたい、という意見です。

ここで、僕たちは web サイトでどちらの方が難易度が低いかを調べました。

するとお箸の方が作業工程が優しくて作りやすいことがわかりました。なので僕たちは、お箸を作ることに決定しました。

そしていざ、お箸を作った時にぶち当たった壁があります。それは、なかなか完成しないという壁です。

この時すでに和田クエを開始してから 5 時間~7 時間経っているのになんの成果もあげられていない。そしていまだ 1 膳も完成していない。

これはまずい。

そこで自分たちの考えたことは、これまでに 1 度 zoom でお世話になった「大内工芸」に助けを求めようということでした。

そして、無事大内工芸のおかげで僕たちは救われました。

教わったことは大きく 2 つあります。

まず 1 つめは、自分たちはずっとヤスリで削りながら行っていたのでそこを効率良くするため、カッターナイフで削っても手はそうだろうか、ということ。

そして 2 つめは、見た目をより良くするために一番上の部分とお箸自体を丸ではなく四角くしてみようということ。このようなことを zoom で学んだのでこれを活かしてお箸を作っていました。

結果的に、効率はこれまでに比べて 2 倍くらいになり、見栄えもこれまでに比べ綺麗にカッコ良くなりました。

このように僕たちの伝説はたくさんの試行錯誤を繰り返し完成しました。

和田クエスト

和田クエにて、舞鶴のことを学ぶ機会があった。そこで今の舞鶴の問題点は何があるのか気になったから調べることにした。私は前に授業にて、舞鶴市長の話聞く機会があった。そこで聞いたのが「若い人たちが舞鶴から出ていき、人口が減っている」と言っていたのが印象に残っており、その問題点について調べることにした。

最初に、なぜ若い人が舞鶴から出て行くのか考えてみた。そこで私は、若い人が舞鶴から出ていく理由は、都会の大学にいたり、別の場所で専門的なことを学びたいという人がいるのが理由だと思った。でも問題はそこではない。多分、若い人が「また帰ってきたい」と思う人が少ないのが原因だと思う。舞鶴は自然があり、山の幸、海の幸も取れるいい場所だと私は思う。若い人たちがまた帰りたいと思うためには、若者向けの建物が必要だと感じた。だから私は、その建物について考えることにした。

舞鶴には子育て世代に向けた建物はあり、子供が小さい頃にはいい場所だと思う。でも中学生、高校生となっていくうちに 10 代に向けた建物が少ないことに気づいた。だから遊べる場所があればいいと思ったが、それよりも先のことを考えて大事な建物は何か考えた時に、勉強スペースを思い付いた。そこで、勉強スペースのある図書館をつくりたいと考えた。

舞鶴には、西舞鶴図書館という図書館がある。そこには、自習スペースもあり、席も多かった。でも私は、そこで自習をしたことがなかった。その理由は二つある。

- ・一つ、家から行くのが遠い。

実際に学校にて、なぜ家以外の場所で勉強をしないのかアンケートをとってみた。その多くが、「勉強する場所まで行く時間がもったいない」という意見があった。

- ・二つ、開館時間と私たちの時間が合わない。

私たちが部活を終えてから、図書館で勉強するとなると、着いてからほんの少ししか勉強できない。また先程言ったように距離があるため、とても疲れる。

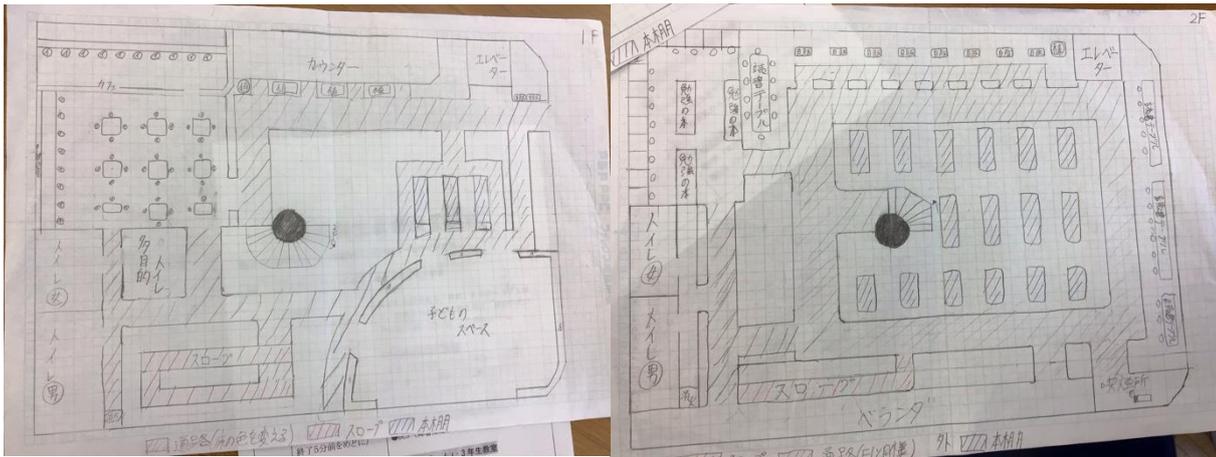
また、私の姉の実体験で、「夏とかの暑い日で図書館に行って勉強しても、老人とかが涼みに来て新聞をペラペラ捲る音で集中できない」と話していた。

これらからわかったことは、「気軽に行きやすい」「勉強する人が集中して取り組めるスペース」などが必要とわかった。

実際にこの二つだけでは若者向けとは言えないと思い、ほかに何があると来やすくなるのか考えてみた。まずは、カフェスペースがある建物。私的に、Starbucks など世界的に有名な店を置くと、若い人は集まると思っている。

また、外見や内装にもこだわること。見た目がいいと映えスポットとなり集まると感じた。この時私はふと思った。「若者だけに絞っていいのかな」と。

ここで私はインクルージョンな図書館を目指すことにした。子育て世代の方や、障がいのある人。様々な人が来やすいような図書館をグループの人たちと作図してみた。



(左 1F, 右 2F)

一回にはキッズスペース、カフェスペースなどがあり、ここでは友達とかと集まったりしながら話すイメージだ。スロープやエレベーターもあり車椅子でもいけるが、スロープは傾斜が5度ではない可能性があるため、バリアフリーとは言えないかもしれない。

私は、初めて建物の設計のようなものをして見たが予想以上に難しかった。みんなの希望も入れつつ、どのようにしたら集中できるかなど、それらを取り入れるのが難しい。

でも、色々と試行錯誤して取り組めたところは良かったと思う。

一から自分たちで考えて行動するというのが、和田クエのいいところだと私は考える。

いつもできないことが和田クエの時間でできるということは、これからのいい経験値となるだろう。

和田クエストでの考え方

『きっかけ』

自分たちのグループでは

「舞鶴は特に目立った特産品や建造物などはないが、ここを囲んでいる大自然を生かせるのではないか」という意見を持った人たちが集まり、今の世界状況を見るとプラスチックの使用量がとんでもないことになっており、それを少しでもへらすべきなのではないかということや最近の舞鶴はほとんど人が家にいたままで外出て遊んだりしておらずその健康状態心配になるという意見に基づいて

【公園を作って活気を増やす】目的となった。

『行動』

- 市役所の人たちに質問
 - 「公園の状況はどんなものか」
 - 「どれほどの数があるのか」
 - 「市有地はどう扱うか考えているのかなど」
- 公園の数は舞鶴でどれほどなのか→30箇所以上
- 公園の整備状況はどんなものか→あまり良くはない
- 龍谷大学でのプレゼン

『分かったこと』

これらのことから公園を作るのには、大量の資材が必要であり、それを手に入れるのにはたくさんのお金が必要でありそのお金は中学生では手に入れられない

結果→無理と判断して目的を変えることにした。

『次のステップ』

公園を作ることが無理とわかった自分たちは、作るのではなく今ある公園をきれいにし、整備すれば良いのではないかと思った。

そこで新たに作った、目的が【公園を整備して活気を戻す】というものであり大切にすべき考えを活気を戻すことと、それにつなげた健康的であり続けられるということの二つに絞った。

これにより自分たちはあまりお金を必要となくなり、地域の人々の許可を得ることでその一つの公園で

課題を見つけてきれいにすることでその地域の人々も利用するのではないかと考えて行動を起こした

『課題』

- 一つ一つの遊具が錆び付いている
 - 老朽化が激しく、苔もこびり付いている
- 実行

- 看板の手直し→錆び付いていたり枠が朽ちていたりしていた為枠を貼り直し、禿げていたペンキを塗り直しルールを作り直した
 - ベンチや遊具の苔や汚れ落とし→ベンチや遊具などは高圧洗浄機を使いこびり付いていた苔などの汚れを取り除いていった
- 結果と考察
- 課題のほとんどがなくなり、公園全体が清潔になった
 - 汚れがいくらか消えたことで少しか来る人も増えた気がする

↓

人々は例え公園でも整備されているところの方が少し遠くても行こうとしてしまうのではないかと考える

『プレゼン』

自分たちはこの和田クエストでの経験をプレゼンして今までやってきたこと発表して少しは話す能力もつけられたのではないかと思う

『最後に』

自分たちは目当てが壮大すぎたり、難しすぎたりと、何度も挫折したことはあったが、そんな中でも何度も何度も意見を出し合って

行動したり話し合ったりできたのは良かったと思うし、その中で話し合う力行動する力などを身につけることができたのではないかと思う

この身につけられた力をこれからもしっかりと生かしたいと思う。

和田クエスト

僕たちは舞鶴を住み続けられる町にするために考えて、地域の人に向けて公園を直していくことになった。なぜなら、公園を直してよりよくしたら運動できる場所が増えて健康につながったり、いろんな人が使うことで地域の交流を増やせると思ったからだ。

まず始めに、公園がどこにありどれくらいあるのかをマップなどを使い調べてから、それぞれの公園が今どうなっているのかを協力して、近くの公園を周り使えるのか安全かどうかを確かめた。すると雑草が伸びていたり、ルールが書かれていたであろう看板が壊れていた。これらの問題があって安全に運動をしたりするには難しいと考えた。進めていくためにインタビューを市役所の人にした。わかったことは、公園には市が管理しているのと市が管理しておらず地域の人によって管理されている、2種類の公園があることがわかった。

次にわかったことを踏まえて問題を解決するために、看板を綺麗に直して公園の遊具などを洗うことにした。色が汚くなっていた看板は、白色にして塗りなおした。文字もぼろぼろで見えづらかったけど、それは公園のルールだった。それらを直していくのは大変だった、できる時間が限られていたり、全員がそろってできないこともあった。僕は本当にできるのかなと思った。今直している公園以外にもまだまだある。だけど今していることは終わらせることができた。少しは良くなったと僕は思った。

このように僕たちは舞鶴を住み続けられる町にするために、課題を出し合ってどんなことをするとよくなるのか考えてこれまで協力しあって頑張ってきた。振り返ると最初は、正直何の意味があってやっているのかわからなかった。面倒くて、楽しくはなかった。しかし終わってみると、舞鶴のことを少し知れたし、何か課題を見つけて考えることは、大変だと感じる事ができた。これからも舞鶴が住み続けられる町にするには、協力し合おうという気持ちを一人一人が持つことが大切だと僕は、思った。

公園の現状と改善

1.目的

生活をする中で舞鶴市の中舞鶴地域の公園を見ているとなかなか整備の行き届いていない所を見かける事がありました。このことを改善すべきだと考え、私たちは約一年半前に始まった和田クエストという授業をきっかけに行動を開始することにしました。

図1



2.現時点での公園の課題

- ① 雑草が多い
- ② 遊具が汚れており、遊ぶ気になれない
- ③ 看板がないまたは見えなくなっている(図1参照)
- ④ コロナ禍により外出しなくなったなどが挙げられました。

3.改善するための方法

公園の課題は多く挙げられ、方法は容易に思いつくが中学生には制限が多い為なかなか行動に移すことのできる方法は見つかりませんでした。和田中学校近郊にある公園のうちいずれか一つを改善のモデルとして整備することで周囲の住民および自治会の方々に公園整備のきっかけとなれば良いのではないかという案が生まれ、その公園をどのようにすれば良いのかを再度考え、

- ① 公園の看板を誰でも読みやすいものに書き換える
 - ② 雑草を刈り取り、怪我をしにくいようにする
 - ③ 遊具や設備を清掃し、使用しても不快にならないようにする
- などが挙げられ、これらを行動に移す計画を練り始めました。

4.当初の計画

公園の管理をしている自治会の会長に公園でしたいことを説明し、許可をもらう

↓

看板の書き換えを開始する

↓

雑草を刈り取る

↓

看板の書き換えを完了する

↓

遊具の清掃をする

5.実際に行った事

会長へ交渉をしに行きましたが、その時には本人が不在のため、許可はいただけましたが、本人と面識のある私の祖父を介しての話となりました。また、その話をした際に、草刈りをもうすぐ行うのではありませんとのことでした。

そして、看板の書き換えを行う際、ネックとなるのが文字をどのように書くかでした。以前は図1のような手書きの達筆な文字でしたが、自分達にはそのように書く自信はなかったので、紙で手作りのステンシルを作り、その上から書くことにしました。しかし、失敗を繰り返してしまいました。ですが、先に油性マーカーで枠を書いてからだと失敗が少なくなることを思いつき、なんとか完成させることができました。(図2)

そして、看板の裏側に木の枠が取り付けられてあり、放置されていたので腐敗していたのですが、そちらも交換し、使えるようにしました。

また、遊具の清掃は、私の家で所有している高圧洗浄機を使い、シーソーやベンチを綺麗に清掃しました。

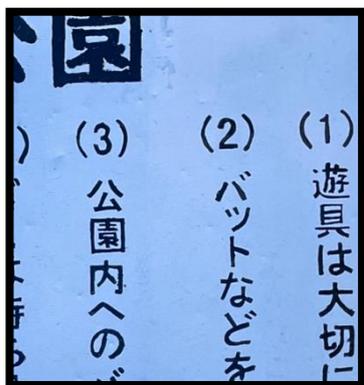
6.この活動を通して感じた事

僕たちは活動を通して、意外にも簡単に行える事が多いことに気付きました。例えば、遊具の清掃などは楽しんで行う事ができたり、看板が読みづらかった問題も、文字をなぞるだけで大きく変わると思います。

つまり、舞鶴市が主に管理をしている公園は使いやすいように整備を常に行なっていただいています。自治会が管理を行なっている公園の多くは簡単に行える整備を行わず公園の土地を無駄にしているように感じました。

ですから、市民である我々で身近な課題を改善すべく取り組んでいきましょう!

図2



改善を行なった公園

若宮公園(上九丁目)

和田クエストを終えて

<目的>

舞鶴の活性化と竹の有効活用としてやってきた。

始めは竹で何か物を作り、それを売って得た利益で舞鶴を盛り上げる事業を興そうと考えていた。しかし、売り場所や物の作成にかかる時間・費用。利益ばかりを重視して方向性や良い案が見い出せないなど、根本的な解決に至ることの出来ない問題が出てきた。一方で若者の体力の低下は著しいものであるという事を耳に挟んだ。若者の元気や明るさが失われてしまえば活気が充分に出ないのでは。そこで市役所職員さんや竹専門店の方とリモート会議を重ね、最終的に「幼稚園・保育園児、小学生向けに竹を使ったおもちゃで体力の向上を図る、双方が楽しい活動」という方針で固まった。

<行ったこと>

- ・竹ぽっくりを作り幼稚園、小学校に配布
- ・バンブークーヘン作り
- ・竹コップ作り
- ・竹鉢作り

<計画していたこと>

- ・竹で流しそうめん

(竹鉢)

目的：職場体験等でお世話になった人へ感謝を伝える。竹の有効活用

過程：竹を高さ約15? cm ぐらいに切り、下に排水用の穴を開けるなど加工し、買った苗を植える

結果：花を枯らしてしまったので届けることができなかった



(竹コップ)

目的：校内に竹の汎用性の高さを伝える。竹を有効活用

結果：汎用性の高さを知ってもらえた。



(竹ぽっくり)

目的：小学生、幼稚園児などの小さい子達の運動能力向上を図り舞鶴を活性化させる。

竹に興味を持ってもらう、知ってもらう。竹の有効活用

成果：届けることができた。オリジナルゲームを考えてより楽しめるように工夫した。

反省点：体力等が上がったり運動や竹に興味を持てたかを調べられなかった。

(バンブークーヘン)

目的：和田中の伝統文化に竹を使ったものを増やしたい。

やってみたい！竹について探求したい！と思ってもらえるようなきっかけ作りをする

成果：たくさんの人からどのようにしたのか、味は、苦労したことはなど様々な反応を頂けた。

興味を持ってもらえたチーム全員が感じた。

反省点：サーチ不足



(流しそうめん)

目的 : 竹を使う 先生を労う。和田 QUEST の活動に興味を持ってもらう。

結果 : 準備期間が足りなくて断念

反省点 : 計画書を作り認識を共通させる必要があった



<まとめ>

- ・竹の活用方法や汎用性を実体験を基に和田中へ伝えることができた。
- ・市役所員の方や竹専門店の方などとの交流から以上のような活動に繋がられた。
- ・舞鶴の活性化にはあまり繋がられなかった。

<感想>

この活動は自分自身の短所・長所を知り、仲間についても知れる機会であったと思う。もしこの活動に興味を持った人がいれば是非、最後まで成し遂げられなかったことを継いでいってほしい。

先を見通して計画を立てることやゴールを決めておくことが大切！！！！

和田クエの素晴らしさ。

・きっかけ

和田クエは自分が住んでいる舞鶴市を活性化させように基づき、そのために最初は僕と友達で舞鶴弁のカード作りをしようと思いました。でも同じ班の友達が「竹で何かを作ろう！」と言われ竹弁当箱や竹コップなどの案はあったけど中学生の僕たちでも簡単に作れるものは何かと考えた時、「竹箸は？」と言われ確かに自分たちでもできそうだと思います。

・ストーリー

竹箸作りのはじめはもう一つの竹グループが学校の後ろの竹を先生にとってもらっていたので自分たちもとってもらいました。竹を 25cm 程度、厚さは 1 cm³にしました。それをお箸の形にするため鉄工やすりで丸をイメージして知識なしでインターネットの情報をもとにしてやっていきました。



写真です↓

でも全員が上手く作れる訳ではなかったです。

そこで自分たちでアポを取って ZOOM インタビューをすることになりました。大内工芸さんという大分県の竹橋専門店さんと ZOOM をしました。大内工芸さんには 12 個の質問をせていただいて、その 1 つにお箸作りで大切にしていることはなんですか？や竹の管理方法は どうして いますか？と質問させていただきました。

質問させてもらったことをもとに竹箸をつくる時にいるもの、作った後にいる物を考え、班全員で買い物にいき、箸を染色させるための塗料材、塗料材をお箸に塗るためのブラシを買って 2 シーズン目の竹箸作りが始まりました。

でも続けていくうちに上手くできない人が増えていきました。なぜなら丸の形を意識しすぎて楕円などになってアンバランスなお箸になってしまっ、プラスで竹箸を持った時に太さが違ったりしたからです。そこで 2 度目の大内工芸さんとの ZOOM で削り方と理想の形についてききました。削り方はカッターナイフを使用して持ち手から食べ物を掴む場所に向かって削ること。形は四角形が望ましいと言われました。自分たちは削る時も好き勝手やすりで削って、形も箸と言えば丸がいいと言っていたけれど 2 回目の ZOOM を通してカッターナイフで一定方向に削ること。形は四角でやること。この二つのことが新たに教えてもらい学べました。

また自分たちがやったことを広めるために和田中学校の HP に載せてもらいました。

→和田中学校ホームページで検索して見てください。



The screenshot shows the homepage of the school website. The main content area features a title '和定中学校 BCS(bamboo chop stick)' and a list of members. Below the text, there is a photograph of a bamboo chopstick, which is the same one shown in the previous image. The website layout includes a navigation menu on the left and a search bar at the top right.

そして11月17日に先生と他学年、他班の前でプレゼンテーションをしました。

また他班のやってきたこともきき新たな学びがありました。その日で和田クエストを卒業？しました。

・最後に

僕は「好きなことができた」2年間の和田クエストだったと思います。最初は某人気ゲーム、ド○ゴンクエストの真似なのかなとか色々思っていました。でも今となれば最高のものでした。なぜなら竹箸作りをしよう！と言って始まった自分たちの和田クエストで箸作りをしたり作り方を大内工芸さんに聞いたり自分たちの「したいこと=好きなこと」が

できたし、時間も限られてたけど成功もできたからです。

終わりに来年新一年生として入学する新一年生やいつも中学校を支えてくださっている地域の方々、保護者の皆様へ自分のやりたいことをしてください。挑戦してください。挑戦して失敗が怖いならこの言葉を覚えておいてください。

Impossible is nothing.(不可能なんてない)by モハメド・アリ

舞鶴活性化のために何をしたいか、何をすれば活性化できるか考えて頑張ってください。

和田クエストでやってきたこと

僕たちが和田クエストでやってきたことは舞鶴にある竹で日用品作ることです。なぜ竹箸を作ろうと思ったかという舞鶴には、沢山の竹が生えていてその竹を改良出来ないかとグループで考えました。最初はバンブーバットや弁当箱を作ろうという話になっていましたが、そもそも勝手に竹を切っているのか？チェーンソーみたいなもので竹を切っているのか？分からなかったのでネットなどで調べたところ、チェーンソーは危ないからダメという判断になりました。勝手に竹を切っているのかということ調べたら、市役所にきいた方が良いと書いてあったので電話で市役所の方に電話をしました。その際に舞鶴森林組合に聞くと良いと聞いたので舞鶴森林組合に電話をしたところ校舎裏にある竹は切っても良いと許可を得ることができました。しかし許可を得ても僕達では切ることが出来ないのので田中さんに竹を切ってくださいとお願いしに行きました。そうすると「良いよ」と許可を得ることができました。僕たちは、竹ポックリと竹の植木鉢を作って小学校と幼稚園に渡そうと考えていたので、頑丈な竹を3本ほど欲しいとお願いしたら「良いよ」と言っていただきました。そして数日後に竹が切れたのが体育館の前に置いてあると聞いたので見に行くと、そこに頑丈そうな竹が3本ほど置いてありました。その竹を和田クエの時間に切りました。切る道具はノコギリです。切る時は竹の上に切らない人が乗って竹を切る際の安定感を増すことができました。でも、竹はかなり太いので、一回切るのにも2分半くらいかかります。その作業を2、3時間かけて終わらせました。これで植木鉢と、竹ポックリの竹は完成しました。

それから数日後に竹ポックリの紐と植木鉢に入れる花を買いに行きました。その次の時間には紐を当すための穴をドリルであけ、竹ポックリにカラフルな色を塗って、そのあけた穴に紐を通しました。それを後日幼稚園と小学校に渡しに来ました。そうすると小学校も、幼稚園も喜んでくださっていたのでよかったです。

最後に、和田クエは最初は面倒くさいと思っていたが、やって自分いくうちに自分たちで考え、地域の人と関われる一石二鳥の授業だったなと思いました。

スイーツで舞鶴を活性化したい

現在の舞鶴市は東京や大阪などの都会に比べて、活性化、盛り上がっているとは言えない。そこで私たちのグループは中学生だけでも舞鶴市を活性化できる方法について考え、話し合った。費用があまりかからない、中学生でも実現可能な案を捻り私たちは一つの考えにたどり着いた。

「スイーツ作りで舞鶴市を活性化させよう。」

本当にスイーツで活性化ができるのだろうか、そんな考えは私たちの頭に一切なかった。目的を達成させるための抽象的な方法が決まれば、グループの中でたくさんのアイデアが浮かび上がった。

レトロなカフェを建てよう、これが初めに掲げられた目標。他店のケーキを試食し参考にしようと考え、行動に移した。しかし中学生だけでお店を出すことは思っていたより難しいことだった。費用も足りない、人材も足りない、諦める以外の選択肢は中学生である私たちには一つもなかった。

次に他の班を参考にし五老ヶ岳カフェでの出品を考えた、一つの案を断念したぐらいでは私たちの考えは変わらない。舞鶴のご当地キャラである「チョコ丸くん」をイメージしたクリームソーダで観光客を惹きつけられれば、少しでも活性化するのではないかと考えた。

試作を繰り返し思い描いている完成図に近づくよう努力を尽くした。だが、ここでまた壁にぶつかった。私たちが持ち合わせている技術ではチョコ丸くんをイメージして作ったクッキーをアイスクリームの上で長時間乗せ続けることができない。お客様に出すことを考えると、完成してから運び食べてもらう前に、形が崩れチョコ丸くんを維持することができないとわかったのだ。また一から考え直すこととなった。自分たちで作ったスイーツは売れない。他にスイーツで活性化させるにはどうすればいいのか。

出品できないのならば、作って貰えばいいのではないか。このアイデアがグループの中で出てきた。スイーツで活性化させる方法は、舞鶴をイメージしたスイーツを私たちが作り、食べてもらうだけではない。まずはスイーツに興味を持ってもらうことが大切なのだ気が付いた。市内の人たち、老若男女問わず、たくさんの人たちに興味を持ってもらえることができれば少しでも経済が回り活性化に近づけることができるのではないかと考えた。たくさんの人たちに興味を持ってもらうために私たちができることは何かを考え、悩んだ。

「このスイーツを作りたい。」

こう思ってもらえることができるようにグループで新しいレシピを作り、それを舞鶴市に発信することを決めた。これならば、私たちでも実現できる。一からレシピを作るためにまず何を作るのかを話し合った。誰でもつくれる、自分なりのアレンジを加えることのできるスイーツ、カップケーキはどうだろうか。この意見にグループのみんなが賛成した。しかしただのカップケーキではない、興味が湧くようなカップケーキ、四季カップケーキだ。一人一人が春・夏・秋・冬の中の季節の一つを選び、それらをイメージした私たちだけのカップケーキ作りが始まった。数回の試作を繰り返し、想像力を生かし、たくさんのアレンジを加えたレシピが出来上がった。レシピは完成したが、どうやって舞鶴に広めよう。初めに私たちの身近である、小学生、保育園、幼稚園に配ることが決定した。実際の写真を貼り付け、それぞれが自分のレシピに興味を湧くようなタイトルをつけた。

しかし、それらのレシピを配る前に和田クエストが終わった。私たちは時間が迫っていることを忘れていた、ようやく自分たちで活性化させられる方法を見つけたのに目標を達成することができなかったのだ。このグループのアイデアは失敗だと思った。

だが、3年生の和田クエストは終わってしまったが私たちの後輩の1.2年生やこれから中学校に入ってくる小学生たちの和田クエストは始まったばかりなのだ。私たちだけで目標を達成しなければならな

いわけではなかった。今までやってきたことを次の世代に引き継ぐための過程にできることができたのなら私たちの計画、経験は無駄ではなかったと言えるだろう。後輩たちに私たちの想いが届くことを願い、私たちの和田クエストは終了した。

和田クエスト まとめ

和田クエストとは疑問を自分たちで探求し答えを見つける、という活動だ。私たちのグループの課題は「舞鶴を活性化する為には」のもと探求を続けてきた。最初は舞鶴にどのような施設、建物が舞鶴に欲しいか、というのから始まり、若者へ向けた建物が欲しいという意見をもとに考えてきた。そこから私たちは「映え」があるカフェが欲しいという願望からカフェを造るにはどうすればいいか考えた。

まず、最初にでた案が「活気を失っている商店街にレトロなカフェを造る」という案だった。舞鶴の課題としてあげられているのが「若者が少ない」ということ。私たちはその課題に着目し、SNS上で流行っていた「レトロカフェ」を基に舞鶴にも造れば人（若者）が来てくれるのではないかと考えレトロカフェオープンに向けて案を出し合った。（結局全年齢対象にしました😓😓😓）

レトロといえば・・・?? からグループでメニューを出し合い、クリームソーダという意見が出た。普通のクリームソーダを出しても面白くないと考えた私たちは舞鶴を活気づける為にはという課題から、舞鶴にちなんだクリームソーダを考えることにした。舞鶴といえば「豊かな自然」や「海」。自然といえば緑色。だが、緑色のクリームソーダなんてどこにでも売っているのではないかと、せっかくなら海をモチーフに青色のクリームソーダの方が特別感があっていいのではないかと、という私たちの考えから青色のクリームソーダを一つのメニューとして話を進めていくことにした。メインはクリームソーダでサブをどうするか話あった結果、ケーキにしたい!! ><という意見が出てきた。ケーキはなるべくコストが抑えることができる生チョコケーキにし、早速試作した。

1. 試作①

試作をして分かったことはクリームソーダを作るのは案外難しいということ、生チョコケーキが甘くて大人向きではないと感じたこと。味付けを全年齢対象にするには難しかった。全体的にうまくいかなかったので断念した。

2. 次の案へ

どうしてもクリームソーダにしたかった私たちは違う路線で考えてみることにした。舞鶴のご当地キャラクターのチョコキまるくんをクリームソーダで表すことはできないか、クリームソーダのアイスの部分を顔にできないか、など話し合い、イメージ図を作成し、チョコキまるくんクリームソーダを作ることにした。

3. 試作②

チョコキまるくんクリームソーダを作ってみて、ソーダの部分はとても綺麗に作る事ができた。だが、チョコキまるくんの形をクッキーや、チョコペンで再現する事はとても難しかった。不恰好なチョコキまるくんが出来上がってしまった。作るのがとても難しかったのと、チョコキまるくんの著作権問題が少し手数がかかってしまうなど思ったため、チョコキまるくんクリームソーダも断念した。

4. 別の案へ

私たちはクリームソーダで何かを作ることは厳しいのではないかと考え、別の案を考えることにした。

クリームソーダではなく別の何かで舞鶴を活気づけることはできないか考えた結果、他よりも失敗しにくく、コストが抑えられるカップケーキにすることにした。また、私たちが考えたカップケーキは四季カップケーキ。それぞれの季節のイメージに合ったカップケーキを作り、レシピを小学校、保育園、幼稚園に配るという方向に決めた。（この時の私たちのテーマは舞鶴を活性化するというテーマ+お菓子作りの楽しさを知ってもらうというもテーマに変えた。）

四季カップケーキを試作し、レシピを作り印刷の手前までできたが、時間が足りず小学校などに配ることができなかった。少し見通しが悪かったかなと感じた。



5. 和田クエを振り返って

和田クエストを振り返ってみて、自分が達成したい目標や課題に向き合うことができた。個人的に最後までやりきることができなかったのが和田クエにおける後悔だ。私たちが最後までやりきることのできなかったこの課題を次の生徒が受け継ぎ私たちの課題を解決してくれたら嬉しい。

和田クエスト

僕たちがなぜ和田クエストで竹箸を作ろうと思ったかという舞鶴には竹が多いと思ったからだ。そして竹を使って何か作ったら竹も減らせるし便利な物も作れて一石二鳥と思い竹箸を作った。

僕たちがやってきたこととしてまず、大内工芸さんに作り方や道具を聞いた。そして自分達で聞いたことを実際に作ってやってみた。丸の形を目指してヤスリで竹を削っていくと意外と難しかった。太さや長さは2本とも同じぐらいか、持ち手がガタガタしたりして持ちにくくなっていないか、先端で食べ物は掴みやすいかなど色んなことを考えて作ったのでとても難しかった。持ち手がうまくできても先端が細すぎてしまったり、削ろうとしても硬くてなかなか削れなかったりした。

そこで大内工芸さんにもう一度箸の形から削り方、箸の工夫の仕方などを聞きアドバイスをもらった。

まずは形を丸から四角形に変えた。丸にすると角を削る必要があり時間がかかってしまうからだ。また箸を最初からヤスリで削るのではなくまずはカッターで大体の形を整えてからヤスリで削るようにした。カッターを使うと早く竹が削れるようになり効率も上がり、簡単に箸の大体の形が作れるようになった。太さは大体で作っていたので持ちやすい太さも聞き持ち手が約7mm、先端が約2mmになるようにした。先端は箸同士がくっつくようにするためにあまり工夫や手を加えることができなかったが持ち手の部分も何も工夫がないと面白くないので、持ち手の先を斜めにしたりダイヤモンドカットにして寂しくないようにして箸を完成させた。

僕たちが竹箸を作ってみて思ったことは簡単な作り方を知れば、誰でも作れるというこ

とだ。竹は生えている草が少なかったし切った竹を運ぶ時も重く感じることはなかったの
で木よりも加工しやすいように感じた。また舞鶴の竹が多いといった問題も竹箸をたくさ
ん作れば少しずつ解決に向かって行けると思った。僕たちは持ち手の形を少し変えただけ
だが、色を塗ったりしてみてもいいと思うし、箸以外にもスプーンやお皿などの他の食器
や、ペン立て、遊び道具などもつくれると思うから竹の工夫はし放題だと思った。

僕はこの活動を通して舞鶴の自然に良さを知ることができた。竹といえばかたいとかは
えすぎていて邪魔としか思っていなかったが、調べたり小学生との交流をしたりして竹箸
や竹のコップ、ペン立てなど色んな便利なものを作れると知れた。また舞鶴の課題を考え
てどうしたら解決できるかや活動の中で自分
は何をしたらいいかを考えて行動することができた。

ダイヤモンドカット →

